

平成 2 9 年度
事業報告

[Ⅱ]

社会福祉法人諏訪ノ森会
各施設

目 次

I. 介護老人保健施設いちい荘	・・・	1～ 7頁
II. 指定介護老人福祉施設樹の里	・・・	8～12頁
III. 在宅介護支援センターえんじゅ	・・・	13頁
IV. 居宅介護支援事業所はなまる	・・・	14頁
V. 訪問看護ステーションひまわり	・・・	15頁
VI. ヘルパーステーションコスモス	・・・	16頁
VII. デイサービスセンター実見	・・・	17頁
VIII. グループホーム星遊荘	・・・	18頁
IX. グループホームはくちょう荘	・・・	19頁
X. グループホーム宮田館	・・・	20頁
X I. ケアハウスリラ	・・・	21頁
X II. 有料老人ホーム菊川荘	・・・	22頁

I. 介護老人保健施設いちい荘

事務部業務報告

(担当：西村 喜文)

I. 【ミッション】

施設全体の窓口として、迅速かつ正確・丁寧な対応を心がけ、外部内部との繋がりを確たるものにする。

II. 【ビジョン】

「明るく楽しい活動的な施設」という雰囲気や環境づくりをする。

III. 【ストラテジー】

お客様を最初にお迎えする場であるため、常に笑顔で、自分から先に気持ちや心を表現する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 人材育成。

施設内研修、学習会へ積極的に参加し、認知症への理解を深める事が出来た。

2. 常に笑顔で接し、面会で来荘された家族様へ声掛けを通しコミュニケーションを図った。

3. 玄関ホール・廊下等に季節に合った飾り付けを行い、来荘者や入所者様の話題作りになった。

4. 感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）流行防止の為、面会に来られる家族様等へ受付時に体調チェックを行い、施設内へ感染症を持ち込まないように注意喚起を行った。

5. 電話のかけ方・受け方。

利用者様や家族様、関連業者等からの電話の受け答えには、思いやり、気配りを持って対応することができた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

関連部門への情報提供。

1. 月々の入所（短期入所含む）、通所利用料の入金、未収の情報を把握し、各部門へ提供することが出来た。

2. 利用者様からお預かりしている通帳と台帳との照らし合せを行い、残高不足とならないよう努めた。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. コピー機がFAXの複合型となり使用枚数が増えたが、送られてきたFAXの詳細を予め確認する事により出さなくても良い物を削除出来るようになった為、昨年度より大幅な枚数の削減に繋がった。

いちい荘事務部コピー機使用枚数 4,649枚（前年比 788枚減）

2. コピー用紙・切手購入に関し、過剰在庫を持たないように管理を徹底した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

1. 受付での入出金処理は、お客様を待たせる事が無いよう次年度に向けより早く正確に処理対応できるように努めた。

2. 受付担当の情報共有の為に専用ノートを作成し、日報の他にノートを活用する事で、効率よく業務に当たる事が出来た。

VIII. 評価

1. 受付時における面会者への体調チェックを行い、マスクの着用等を促した結果、感染症（インフルエンザ・ノロウイルス）の施設内への持ち込みを防ぐ事が出来た。

2. 受付担当の一人が介護への応援業務に入った為、本部職員が交代で受付業務を行う事となった。受付担当の情報共有ノートを活用し、情報共有を綿密に行う事により業務に支障が無いように行う事が出来た。

IX. 課題

1. 接客時や電話対応時に、新たな電話や来客があった場合の受付フォローの体制強化。

2. 介護保険法の理解を進め、間違いの無い迅速な電話対応を継続して行っていく。

支援相談部業務報告

(担当：中嶋 洋子)

I. 【ミッション】

お客様（利用者様や家族様等）と信頼関係ができ、気軽に何でも相談いただける関係を構築する。

II. 【ビジョン】

お客様（利用者様や家族様等）が満足していただける対応を心掛ける。

III. 【ストラテジー】

コミュニケーション技法の取得と制度の解釈・知識を習得し実践する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 相談や利用申し込みは、家族様の希望に合わせた時間にスピーディーに対応した。
2. 入所後の利用者様の状態を各職種で検討し、本人様、家族様の意見を反映し施設サービス計画書の作成をおこなった。
3. 入所後の方向性について家族様と面談。自宅へ4名、法人内のグループホームへ10名、ケアハウスへ2名、特別養護老人ホームへ7名、有料老人ホームへ1名の利用者様が退所となる。
4. 通所リハビリテーションの利用状況を把握し、居宅介護支援事業所と連携を図り新規利用者様の獲得をおこなった。
5. 慰問の受け入れは、関係機関と日時の調整を行い、保育園等の受け入れを実施した。

V. 収入に関する重点項目：お客さまを増やす・稼働率の維持向上の具体策

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用率(%)	92.27	92.03	94.33	92.19	88.81	87.03	87.71	87.27	88.45	93.55	95.68	94.00	91.11
稼働率(%)	94.30	93.77	96.37	93.90	90.61	88.43	89.10	88.70	89.94	94.90	96.64	95.06	92.64

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
空床数(日)	232	247	170	242	347	389	381	382	358	200	121	186	3255

1. 入退所状況の把握を行い、新規利用者様のご案内を円滑に行うとともに短期入所利用に関しては随時追加利用に対応できるように調整した。
2. 利用者様・家族様に介護老人保健施設の役割の説明を行い、面会時に時間を頂き今後の方向性等について説明、確認を実施した。
3. フロント受付センターや居宅介護支援事業部門と連携を図り新規利用予定者の調整を行った。

VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための削減の具体策

常時必要物品の管理・把握に努め、過剰購入することなく実施した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善策の具体策

定期購読書（全国老人保健施設協会）を読み、世間の情勢を理解し必要な箇所に関しては部内で伝達し合った。

VIII. 評価

うぐいす組空の棟結露対策改修工事終了後、利用者様の受け入れ体制を整え順次案内するが、状態不良者の予定外の入院や死亡退所、他関連施設への補充等により、空床数が前年度と比較して多かった。（昨年度2393日）

IX. 課題

1. 介護老人保健施設としての役割を理解したうえで十分に利用者様へ伝え、地域に貢献できる体制を構築していく。
2. ベッドの回転率を上げると同時に、利用率100%を目標に関連部署（フロント受付センター、居宅介護支援部門）や関係性が強い医療機関と連携を図る。
3. 新規相談者様に関しては、見学から案内までの時間を空けることなく対応していく。

リハビリテーション部業務報告

(担当：齊藤 康明)

I. 【ミッション】

個々の全体像を把握し、適切かつ専門性を活かしたリハビリテーションの展開。

II. 【ビジョン】

機能維持・回復のみならず「活動・参加」を意識したリハビリテーションの展開。

III. 【ストラテジー】

『できる能力』と『している能力』を把握し、残存機能の維持・向上に努める。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. (1)健康相談会での転倒予防体操の指導回数は1回であった。(10/10・野内町会)
(2)他施設・他事業所の依頼に応じてリハビリテーション評価を実施した。(計27回)
2. 情報共有から生活リハビリテーションプログラムの設定はできたが、現場での実施状況
を評価するまでに至らなかった。
3. 利用者様・家族様の要望を適時に対応し、見学は11回受け入れた。
4. 外部への学習会や研修には計5回参加した。地域包括推進リーダーと介護予防推進リー
ダーの資格をそれぞれ1名ずつ取得することができた。

V. 収入に関する重点項目：お客さまを増やす・稼働率の維持向上の具体策

(回数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期集中リハビリ	59	121	160	137	89	35	33	44	64	87	68	71
認知症短期集中リハビリ	38	47	67	51	38	28	20	41	66	78	59	42
短期入所・個別リハビリ	0	0	3	2	0	2	11	7	4	7	2	3
合計	97	168	230	190	127	65	64	92	134	172	129	116

VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための業務改善の具体策

1. 物品経費節約のために、発注前に在庫確認を確実にし、過剰購入しなかった。
2. 修繕費・訓練備品購入はなかった。
3. 訓練プリントや回想法教材を自作した。また工作作成を展示し、面会の家族様にみてい
ただけるようにした。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善の具体策

入所者様のタイムスケジュールを一週間おきに予定をたて、時間の無駄を省いた。

VIII. 評価

去年と比較し、加算算定の実施回数は228回減の1584回。加算収入も547,200円減3,801,600円となった。空の棟の改修工事のため、新規入居者の受け入れを制限したことが減少の原因ではあるが、月平均316,800円は一昨年度と比較すると増加しているため、工期以外の月では増収していると考えられる。

IX. 課題

P D C A サイクルに基づく、リハビリマネジメントの展開によって、より具体的な生活リ
ハビリプログラムの設定をする。それによって在宅復帰や在宅支援の援助を拡大させる。

給食部業務報告

(担当：小泉 美由紀)

I. 【ミッション】

利用者様の栄養管理の徹底と、安全で食べやすい食事を提供する。

II. 【ビジョン】

一人ひとりに合った食事を提供し、利用者様に満足して頂く。

III. 【ストラテジー】

食事観察、残食調査の実施、食材・調理方法の工夫。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 毎月1回行事食の提供：全施設を対象に、毎月テーマを決め、調理担当者が旬の食材を使用した行事食を考案し、予定通り提供できた。
2. 個別対応：体重増減による主食量の調整、希望によりパン（食パン、ミニパン等）やおにぎり、ラーメン等提供した。疾病による療養食対応（糖尿病食、心臓病食、膵臓病食、糖腎食等）、好き嫌い対応（肉、卵、青魚、刺身、長芋、揚げ物）等、可能な限り個人に合わせた対応を行った。
3. 報告・連絡・相談の徹底：毎月1回給食会議を開催し、意見交換、業務改善策等検討し、情報を共有した。調理機器の故障や、早急な買い換えが必要な際は、経理や上司に即報告し、調理業務に支障がないよう心がけ、対応する事が出来た。
4. 通所利用者様へバイキング料理の提供：4月寿司祭り、7月七夕そうめん祭り、10月手作りバイキング、1月鍋料理を実施し、食の楽しみを持って頂くと共に、利用者数の増加を目指したが、殆ど変りなく微増に留まった。
5. ハーフ食の提供：摂取状況に応じて、ハーフ食やクォーター食等負担なく必要な栄養を確保できるように対応した。補食として、高栄養補助食品や野菜ゼリー、プリン、ココア等嗜好に応じた補食を提供した。
6. 看取り対象者への対応：看護や介護員と協力し、経口流動食等可能な限り口から食べられる食品（ゼリー、プリン等）を提供した。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率向上の具体策

経口移行加算は対象者なく算定できなかった。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

厨房機器の買い替え・保守点検等で、経費が発生した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善の具体策

昼食時（12時半～13時）毎日食事観察を実施。2月からは朝食介助の依頼に応じた。

VIII. 評価

10月から入所者様全員におやつを毎日15時に提供できるようになり、喜ばれている。

IX. 課題

補食の経費が増加している為、削減方法を検討する。

診療部業務報告

(担当：佐藤 大樹)

I. 【ミッション】

私達は、入所者様と家族様に対し、安心、安全、快適に過ごしていただくために療養環境を整え、他部門と連携したチームワーク、良心的で専門職としての博愛の精神、奉仕の精神をもって看護を提供する。

II. 【ビジョン】

1. パーソンセンタードケアの思想に基づいた個別的援助の提供。
2. 入所者様、家族様の希望、思いを大切にし、責任と継続性のある看護の提供。

III. 【ストラテジー】

1. 業務内容の見直しを行い、業務の適切化、効率化、サービスの向上に繋げる。
2. 記録の充実により看護援助を分かり易くする。
3. 入所者様の病状の変化を正確に分析し、その時々適切な看護ケアや緊急対応が行える。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 入所者様の健康診断を行う。
 - (1) 施設長の指示のもと、6ヶ月に1回血液検査を実施出来た。
 - (2) 血液検査の結果、糖尿病や貧血の数値が悪化した入所者様に他科受診又は内服薬処方を実施し、病状悪化を防止出来た。
2. 感染症の防止に努める。
 - (1) ノロウイルス1名、インフルエンザウイルス1名罹患したが、感染防止対策マニュアルに沿い、感染の蔓延を防止出来た。
 - (2) インフルエンザウイルスの予防接種59名、肺炎球菌ワクチンの予防接種6名実施し、重症化を未然に防止出来た。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

看取り介護対象者には、施設長同席の上、家族様に説明。他部門と連携し、ターミナルケアが実施出来た。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

他科受診で処方された内服薬、外用薬、注射薬は同作用で薬価の低い薬剤を選択して、コスト削減を実施した。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

点滴等処置が多い組には、看護師の配置を多くした事で、入所者様の健康管理に支障なく業務を実施出来た。

VIII. 評価

定期的な血液検査による異常の早期発見で、早期受診、早期治療に繋げることが出来た。

IX. 課題

医師、介護職員、栄養士と連携を図り、褥瘡の予防、治癒に努めていく。

通所リハビリテーション部業務報告

(担当：佐々木 節子)

I. 【ミッション】

家族様、利用者様の思いを受け止め、個々にあったケアを実践することにより満足の向上を図る。

II. 【ビジョン】

自分の場所、役割があり馴染みの仲間と楽しく過ごすことができる。

III. 【ストラテジー】

家族様がデイケアからの発信を入れながら在宅生活を送れるようサービスの提供と情報の共有を図る。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 利用者様が満足して頂けるサービスの提供。

(1) 利用者様の生活歴・既往歴・ADLや思いを汲み取りながら利用者様を中心としたサービスや「役割」「活動」「交流」を持ち、馴染みの仲間と楽しく過ごす時間、リハビリテーションを中心としたサービスを提供する事で心身機能の維持を図ることができた。

(2) 家族様の介護相談、依頼、苦情等に迅速に対応。信頼関係を築く事が出来た。

2. ひやり・はっとメモの提出により事故防止に繋げることが出来た。

3. 些細なことでも職員間のコミュニケーションを図ることで明るい職場作りができた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 利用率アップを図る。

定期的に新規利用者様はあったが、体調不良にて入院等あり、利用率アップに繋がらなかった。しかし、利用者様の健康状態を把握することで、感染症の発症や蔓延を防ぐことが出来た。

2. 短時間利用の提供を行うことで利用者様のニーズに答えることが出来た。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

短時間利用や時間指定のコース等の調整がつかず燃料の節約に繋がらなかった。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

デイケア連絡帳の内容を見直した。記載に要する時間の短縮が出来た。

VIII. 評価

1. 利用者様、職員の健康管理を行い感染症の予防を図ることが出来た。

2. 行事（年間計画に基づき）を定期的に行うことで、利用者様、職員共に楽しい時間を共有できた。

IX. 課題

個々にあったレクリエーションの提供を行い活性化を図る。

入所部介護業務報告

(担当：佐藤 枝里子・鹿内 千枝子・石戸 美帆)

I. 【ミッション】

入所者様・家族様のニーズを把握し、多様なニーズに応えるサービスを提供するとともに、サービスの質の向上に取り組む。

II. 【ビジョン】

入所者様一人ひとりが自分らしい生活を送ることが出来る。

III. 【ストラテジー】

入所者様の立場になって物事を考え、思いやりを持ってケアを行う。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 入所者様のニーズを把握し、根拠のある支援が実施できる

法人内学習会（7件）、法人外研修（3件）に参加する事で介護職員として必要な知識と技術を習得することが出来た。

2. 安全、安心な生活を支援する。

ひやり・はっとメモ、事故報告書を基に対策について話し合いや評価を行い再発防止に努めたが、骨折事故が8件と多かった。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 入所者様が体調を崩さずリハビリテーションが実施できる。

健康管理に努める。

・7月に入所者様1名がノロウイルスに罹患。隔離対応と消毒を徹底することで蔓延予防につながった。

2. 在宅復帰を目指し生活リズムを整える。

施設サービス計画に基づく支援を実施し、16名の入所者様が在宅復帰をした。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

排泄環境の見直し。

・排泄リズムの把握に努め、便座での排泄を基本としオムツはずしの取り組みを行った。結果、布パンツ使用者5名から18名になり、13名増となった。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

入所者様に快適に過ごしていただく。

・日常業務の中に散歩の時間を組み入れるとで施設内外の散歩を行う事ができた。

VIII. 評価

ひやり・はっとメモの各組毎の提出件数にばらつきがあり、提出数が少なかった。事故予防に関する意識低下が骨折事故が多かった要因の一つと考えられる。

IX. 課題

1. ひやり・はっとメモの提出を促しPDCAサイクルの手法を取り入れ事故防止を行う。

2. 入所者様の体調変化時は、症状や経過がわかるような記録の記載を行う。

Ⅱ. 指定介護老人福祉施設樹の里業務報告

1. 事務部業務報告

(担当：丸本 一子)

I. 【ミッション】

施設の窓口として「良い施設」という評価をいただけるように、清潔を心掛け、言葉遣いに注意し、迅速かつ丁寧な対応をしていく。

II. 【ビジョン】

「もの」を大切にし、仕事にかかるコストを抑え「ムダ」を排除する。

III. 【ストラテジー】

仕事の効率をあげるため、ミスや取り違いなどしない様に注意し「正しく」行っていく。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 面会等で来所の家族様と会話をするよう努め、コミュニケーションを図った。
2. 認知症に関する知識を深めることにより、ささいな変化等に素早く対応できた。
3. 玄関及び受付周辺に季節感を演出する装飾をすることで環境美化と会話ツールの役割を果たした。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

パンフレット、チラシについては、配置場所等の変更を行い、リニューアルは次年度に持ち越しとなった。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実施するための削減の具体策

切手代節約のため、面会時に請求書および配布書類を手渡しした。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

人員減少による負担軽減のため、介護部門の書類作成業務等を事務部門へ移行することとした。

VIII. 評価

会議等の内容を各部門へ回覧することで周知を図れた。

IX. 課題

会議等の内容について回覧はしているが、確実性に欠けるため、周知方法を模索していく。

生活支援部生活相談業務報告

(担当：加藤 貴博)

I. 【ミッション】

入所者様の尊厳を守り、信頼と安心のできる相談を実施する。

II. 【ビジョン】

入所者様や家族様がいつでも相談できる。

III. 【ストラテジー】

1. 迅速且つ親切な対応をする。
2. 来設者(相談者)や入所者様家族様への積極的なアプローチをする。
3. 笑顔を第一に、お客様に喜ばれる心遣いと言葉遣いをする。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 新規入所相談等、法人内各事業所の説明も行いフロントとも情報共有する事で、樹の里のみではなく法人内施設サービスの利用へとつなげた。
2. お客様の希望を定期(6ヶ月毎)及び随時確認、サービス計画へ反映させた。
3. 施設サービス計画は、状態変化等の都度見直し、必要時には計画内容を変更し、家族様への説明と同意を得た(13名)。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

	H29.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30.1月	2月	3月	平均
利用率(%)	100.00	98.66	98.56	99.78	100.00	99.67	97.53	99.28	99.41	99.73	98.87	99.14	99.22
稼働率(%)	100.50	99.25	99.00	99.95	100.27	99.83	97.74	99.39	99.52	100.00	99.17	99.46	99.51

	H29.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30.1月	2月	3月	合計
空床数(日)	0	25	26	4	0	6	46	13	11	5	19	16	171

新規入所者様：16名(法人内施設：11名 外部<自宅、医療機関>：5名)

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

家族様から頂く署名等、面会や訪問を活用し郵送での切手代等経費削減に努めた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

1. 席が寮母室から事務室へと移動した事により、家族様面会時の対応が都度可能となり、良好なコミュニケーションを図る事ができ信頼関係の構築に繋がった。
2. サービス担当者会議へ出席して頂けるよう、御都合を伺い日程調整を行った。

開催月	H29.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30.1月	2月	3月
対象者数(名)	6	6	9	13	12	10	7	9	9	15	11	9
家族出席(件)	6	5	7	10	12	10	6	8	7	12	11	9
出席率(%)	100.00	83.33	77.78	76.92	100.00	100.00	85.71	88.89	77.78	80.00	100.00	100.00

VIII. 評価

1. 利用率平均 99.22% 入院による空床は少なかった。同月内での死亡退所が続き、新規対応するも書類作成(利用調査表)等に日数がかかり空床が発生してしまった。
2. サービス担当者会議への家族様参加は、年間平均 88.79%で実施できた。

IX. 課題

1. 新規予定者の利用調査表を事前に作成し、ご案内まで最短の日数で仕上げていく。
2. フロント受付センターとの情報共有や連携を図り空床発生時の早期対応に繋げる。
3. 待機者の情報を都度更新し、早期案内可能か否か整理していく。

生活支援部栄養業務報告

(担当：齋藤 奈美子)

I. 【ミッション】

安全に美味しく食べられる食事の提供。

II. 【ビジョン】

入所者様がその時々々の状態にあった食事・水分を摂る事ができる。

III. 【ストラテジー】

食事観察の徹底、食事形態の検討、手作り補食の提供。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. ハーフ食・クォーター食への取り組み

負担なく、食べていただく為、関連部署との連絡を密にし、個人ファイルに経過を残し、対応した。

(対応人数推移)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	14	14	14	10	10	11	14	14	14	14	11	12

2. 食欲不振の入所者様への対策を検討

(1) 「手作り補食」を3食追加提供し、食欲維持に努めた。

(2) 職員間での情報を共有し、入所者様の好む飲料を提供。脱水予防に努めた。

また、家族様に働きかけ、好む食べ物等の差し入れを依頼し、食欲回復に努めた。

(3) 疾患に配慮しながら、食べやすい補食を作成、提供した。

(4) 「食事」提供にこだわらず、入所者様が「今一番食べたい物」を関連部門で探り、可能な限り提供した。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

体調の変化に注意する。

・体調や嗜好の変化等の情報を集め、負担なく食べる事ができるように努めた。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 手作りの補助食を提供する事により、経費の削減を図った。

2. 入退所に合わせて、食数管理を行う事で、給食経費の削減を図った。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善の具体策

栄養ケアマネジメントを確実にこなした。

・栄養ケア計画の作成、アセスメント・モニタリングの実施

VIII. 評価

1. 関連部門の協力を得、「食事」という形式にこだわらず、最期まで口から、本人様の食べやすい物を食べて頂くという、大きな課題を果たす事ができた。

2. 連絡を密にすることで、本人様の嗜好や食べたい物等の情報共有が早くすすみ、迅速に対応する事ができた。

IX. 課題

1. 看取り介護に対応するに当たり、口から最後まで食べて頂く為、個人対応を充実させたい。

2. 疾患に対する知識と食事対応。

生活支援部看護業務報告

(担当：伊藤 洋平)

I. 【ミッション】

最良の知識と技術の習得で、入所者様の心と健康が維持できるようあらゆるサポートを行う。

II. 【ビジョン】

入所者様にその人らしい生活の場となるよう、健康面の援助を目指す。

III. 【ストラテジー】

望ましい生活になるようチームケアで、入所者様の満足度向上を目指す。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 老年看護に関わる資料・参考書等を用意し看護職員への教育に努めた。
2. 各勤務帯のマニュアル・看護行為のマニュアルを見直した事で業務が円滑に行えた。
3. 3名の褥瘡の治癒遅延・悪化が見られた。家族とも相談し皮膚科受診を行った。
4. 定時での下剤内服を減らし、頓服服用や水分の追加提供により自然排便を促し摘便・洗腸等減少に努めた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 看取り介護と緩和ケアを推進し約半数の入所者様の看取り介護契約となった。他部門と定期的にカンファレンスを行い看取り介護ケアの充実を図った。
2. 管理栄養士と情報を共有 4 名の対象者に半固形栄養使用し、誤嚥性肺炎のリスク減少に努めた。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 継続した処置が必要なケースは家族に状況報告。家族負担にて剥離等個人処置用のテープ購入を行った。
2. 感染症発生状況は、インフルエンザ発生 2 件/年、ノロウイルスの発生 0 件/年、疥癬発生 0 件/年。手洗い、うがい等予防実施や感染ユニット隔離で広範囲の感染拡大なし。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

他科受診に付き添うスタッフの不在時の処置等を、現場に残ったスタッフで業務順位変更を行い時間の捻出に努めた。

VIII. 評価

褥瘡の発生が多く又、悪化したケースも見られていた。

IX. 課題

介護スタッフへの褥瘡の発生機序や発生後の留意点等理解を深める必要がある。

生活支援部介護業務報告

(担当：加藤 貴博)

I. 【ミッション】

入所者様一人ひとりに、その方らしい生活を送って頂く為に個人の尊厳を尊重したケアを提供する。

II. 【ビジョン】

職員一人ひとりが職業倫理に基づいた安心、安全、安楽なケアを提供できる知識と技術の習得を図る。

III. 【ストラテジー】

受け持ち入所者様のケアプランに基づき、チームで情報を共有し、PDCA サイクルで実施する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 科学的介護の実践

自立支援に向けたオムツ外しを目指したが介護職員減員の為、結果を出すことは出来なかった。しかし予防に努め悪化させることなく現状維持することが出来た。

2. 馴染みの仲間作り

各組共、食席に気を配り、気の合う仲間と楽しく過ごして頂けるよう配慮し少人数のグループ作りをした。

3. 看取りケアの充実

身体的、精神的、心理的、社会的働きかけを実践し最期の時にはエンゼルケアとメイクを実施しお見送りした。

4. 事故防止

ひやり・はっとメモの提出と分析で気づきの感度を高め、事故発生時にはカンファレンスを実施し、情報共有した結果、事故件数を減少できた。

V. 収入に関する重点項目お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

入所者様の健康管理(入院者を出さない)

・感染症予防

免疫力と抵抗力を高めるための日光浴と外気浴の実施と、1ケア2手洗いの徹底によりノロウイルスと疥癬の発症者はなかった。インフルエンザは2名が発症したが感染ユニット隔離等により感染の拡大を防いだ。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現させるための削減の具体策

職員一人ひとりの経営意識を培いオムツ外しへ繋げる。

・受け持ち入所者様の使用オムツの種類と単価を把握し、随時見直しを図り無駄を省いた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

ユマニチュードの技法を活用し時間短縮に繋げることが出来た。

VIII. 評価

介護職員不足の為、マニュアルの見直しと時間外、役職者の応援で対応し入所者様へのサービスの質を下げないよう取り組むことが出来た。

IX. 課題

時間外が増えることが介護職員のストレスになっている。効果的なストレス解消法と業務改善を提案し継続して入所者様により良いケアを提供することが最大の課題である。

Ⅲ. 在宅介護支援センターえんじゅ業務報告

(担当：對馬 壽子)

- I. 【ミッション】 高齢者が地域の中で安心して生活を続けられるように支援する。
- II. 【ビジョン】 ネットワークづくりをし、地域の相談窓口として活動する。
- III. 【ストラテジー】 一人ひとりに合った支援をする。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
 1. 介護予防教室や健康相談会を通じて、心身ともに健康を維持していただく。
 - (1) 地域での健康相談会・食事会の開催実績
開催地域：諏訪沢・三本木・滝沢・戸山団地・野内・矢作・浅虫 計13カ所
開催延回数：41回 延参加人数：合計401人
 - (2) 認知症介護者のつどい（在宅で認知症の家族を介護している方を対象とした集会）
延回数 12回 延参加人数 26名
 2. 地域のネットワークの構築
 - (1) 健康相談会等の開催を通じて民生委員や町会長、地域の住民とコミュニケーションを図り関係を築いている。
 - (2) 青森市包括支援センター・在宅介護連絡会・東部包括月例会・地域ケア会議への参加。
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
 1. 定期訪問による安否確認・その他相談による個別訪問件数：計39件
 2. 各地域での高齢者の集会等にてえんじゅの活動紹介や当法人の事業所のPRを行った。
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
 1. 青森市介護予防普及啓発事業委託料 45,000円
 2. 地域包括支援センターランチ委託料 1,656,000円
- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための時間効率策の具体策
兼務の居宅業務に時間を使うことが多かった。
- VIII. 評価
 1. 介護予防教室・健康相談会について
 - (1) 地域の出前講座では、脳の健康チェックを東部地域包括支援センターと共同で開催した。
介護予防教室はリハビリテーション部や歯科衛生士の協力を得て開催した。
調理教室では一実商会の調理師の協力を得て実施した。参加した方からは「自宅でも実践したい」「勉強になった」等の声が聞かれ、好評であった。
 - (2) 健康相談会の実施内容は作品作りや体操、脳トレ等介護予防に関連した充実した内容で実施できた。
 2. 総合相談支援について
 - (1) 相談会などの機会を通じて民生委員と独居高齢者の情報交換を行った。
 - (2) 地域包括支援センターと協同で、認知症や虐待、その他の相談について対応する機会が多かった。
- IX. 課題
 1. 地域の出前講座では運動機能を維持向上する内容を充実させていく。また、多くの方に参加してもらえるように民生委員と話し合いをしていく。
 2. 相談機関としての周知を再度行っていく。

IV. 居宅介護支援事業所はなまる業務報告

(担当：工藤 達巳)

I. 【ミッション】

利用者様がその有する能力に応じ自立と安心した日常生活を営むことができるように支援する。

II. 【ビジョン】

利用者様を第一に考え信頼関係を深めニーズや課題を適切に把握し支援する。

III. 【ストラテジー】

利用者様とのコミュニケーションを大切にし迅速な対応と満足ゆく支援を提供する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 介護支援専門員専門研修Ⅱ(参加2名)、主任介護支援専門員研修(終了1名)
介護支援専門員実務研修指導者養成研修(参加1名)、認定調査従事者現任研修・青森市ケアマネージャー研修会・青森県介護予防支援従事者研修会(全員参加)
2. 青森市東部地域包括支援センター、個別ケース会議参加(事例提供)、困難事例ケア会議参加(事例提供)、介護予防伝達研修(全員参加)

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 介護給付費請求、延べ1,194件、20,922,700円、特定事業所加算Ⅱを算定(400点/月)
(平成28年度より延べ91件、2,760,620円増)
2. 介護予防支援者の受け入れを強化。延べ194件、763,110円
3. 医療との連携強化(入退院時の連携加算/入院時連絡シートで報告)
4. 認定調査、延べ302件、1,232,976円

VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための削減の具体策

プリンタートナー補充(3回)、車両保険更新、夏タイヤ購入・修理、切手購入等。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

1. 年中無休、24時間対応体制を維持。
2. 特定事業所加算Ⅱの算定を継続する。

VIII. 評価

1. 1年間同じメンバーでチームワークがとれ業務が遂行できた。
2. 利用率・稼働率が向上し、成果として増益・増収につながった。

IX. 課題

1. 特定事業所加算Ⅱの算定を継続する。
2. 系統立てた人材育成・研修計画と備品・資料管理。

V. 訪問看護ステーションひまわり業務報告

(担当：木村 聡子)

I. 【ミッション】

利用者様の住み慣れた場所で、安心・満足な生活を送って頂けるようあらゆる看護サービスを提供する。

II. 【ビジョン】

疾病や家庭環境などどのような問題を抱えていても、その人らしい生活を送れるような看護サービスを提供する。

III. 【ストラテジー】

在宅で療養する人々が持つ多様なニーズに対応し家族も含めて支援をして行く。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 状態不良時には主治医へ状態報告し、指示を仰ぎ対応。在宅生活を継続できた。
2. 在宅で看取った家族やリハビリで訪問している家族等から感謝の言葉が聞かれた。

V. 収入に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 状況

	H29年度	H28年度	前年比
新規利用者様	29名	22名	+2名
利用終了(死亡)	25名(13)	20名(11)	+5(+2)名
のべ訪問件数	3,330件	3,226件	+104件

2. 収入

	平成29年度	平成28年度	前年度との対比
GHとの医療連携	3,600,000	3,600,000	±0
介護保険	8,402,401	7,539,166	+863,235
医療保険	16,159,377	13,299,648	+2,859,729
利用者様負担分	2,357,269	1,289,034	+1,068,235
合計(円)	26,919,047	25,727,848	+1,191,199

VI. 経費重点項目に関する重点項目：効果的な投資と実現する為の業務改善の具体策

1. 年間ガソリン代：255,296円（前年度比+40,205円）
2. 車両に伴う支出：99,252円（前年度比-127,708円）オイル交換、夏タイヤ買替え
3. 遠方の訪問が増え、ガソリン代が増えた。

VII. 時間重点項目に関する重点項目：サービス時間を捻出する為の業務改善策の具体策

コスモスへの時間移動：年間480.0時間（事務時間）

VIII. 評価

1. グループホームでのターミナル期の方が8名と多く、点滴施行の訪問が多かった
2. 特定開業医や、施設から紹介を受ける事が多く、良好な関係作りが出来ていた。
3. 急な新規の依頼にも、柔軟な姿勢で対応した。

IX. 課題

1. 各関係機関との情報共有を大切にし、利用者様が満足のいくサービスを提供出来る様、連携を図る。
2. 毎月、居宅支援事業所、病院への訪問を継続して行い、信頼関係を強化する。
3. 介護保険・診療報酬改定の内容を熟知し、請求等間違いのないようにしていく。

VI. ヘルパーステーションコスモス事業報告

(担当：花田 幸子)

I. 【ミッション】

利用者様を尊重し、介護状態に沿ったサービスとその人らしい生活が継続できる支援を行う。

II. 【ビジョン】

利用者様が望む場所で、その人らしく安心な生活が継続でき満足していただけるサービスを目指す。

III. 【ストラテジー】

利用者様との信頼関係を築き、安心安全なサービスを提供する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. ケアプランに沿ったサービスを実施した。また、状態変化時にケアマネに連絡しケアプランの変更を提案し、利用者様に満足していただけた。
2. 学習会での情報共有の他、状態変化時は電話や携帯メール、連絡ノートを利用し全職員が利用者様の状態を把握できた。
3. 6月20日に開催された青森県ホームヘルパー連絡協議会の総会及びグループワークに参加。在宅介護現場での判断、対応について協議を行った。内容は毎月行われる会議で全職員に伝達した。
4. 学習会や疑似体験等により、高齢者の体や痛みの特徴の理解を深め、利用者様の病気や状態の変化に早く気づき対応することができた。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

居宅介護支援事業所や地域包括センターとの連携強化や営業活動の結果、新規利用者は前年度より大幅に増加したが、有料老人ホーム菊川荘の閉鎖や身体介護での訪問の終了者が多かった為、結果は前年度より減収となった。

	平成 28 年度	平成 29 年度	前年度との対比
総収入（円）	17,214,580	16,055,117	-1,159,463

	平成 28 年度	平成 29 年度	前年度との対比
新規利用者様	9名	25名	+16名
終了者	17名	18名	+1名

VI. 経費に関する重点項目：効率的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 効率的な訪問を行った。訪問の減少もあり車両費は前年度より1割弱削減した。
2. 新規獲得の増加もあったため、年度の収入目標を達成する事ができた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための時間効率策の具体策

効率の良い訪問計画をたてサービス時間を捻出する事ができた。

VIII. 評価

新規獲得件数の前年度比は増加しているものの、総収入では減収となった。

IX. 課題

訪問介護員の高齢化もあるため前年度同様、訪問介護員の獲得が問題であるとともに前年比減収とならない様、身体介護等収入増に繋がる利用者様の獲得が今後の課題とされる。

VIII. デイサービスセンター実見業務報告

(担当：和田 真理子)

I. 【ミッション】

利用者様が生きる価値と希望を持って暮らす。

II. 【ビジョン】

認知症対応型として絶対的な信頼を得る。

III. 【ストラテジー】

個別の機能低下防止メニューと楽しみを見出す。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策 認知症ケアの理念を理解して実践できるスタッフの育成に取り組んだ。

- ・ STAYの精神で利用者様の訴えをありのまま全てを受け入れた。
- ・ 個別訓練を計画的に実施し、自立支援をした。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策 年間を通じて利用率85.83%だった。(H28は83.30%)

- ・ 利用者様のニーズに応えるケアプランを実施した。
- ・ 受け入れ困難とされる方の積極的な受け入れをした。
- ・ 相談には丁寧に対応し、チームケアを実践した。
- ・ 法人内外の事業所と連携を図り、利用者様の満足を得た。
- ・ 居宅介護支援事業所に挨拶にいき、実見をアピールする事が出来た。

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策 生活の環境を整える。

- ・ 日々の点検をし、備品を大切に扱い無駄な経費を抑えた。
- ・ 節約や消耗品の管理で経費削減に努めた。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策 個別ケアを重視し、適切なケアを実践した。

- ・ 業務改善すべき点を話し合い、改善に繋がった。
- ・ 毎日のカンファレンスで情報を共有し、スムーズに業務を遂行した。
- ・ 5Sを実践し、整理整頓をして必要な物がすぐ取り出せるようにした。
- ・ 利用者様の趣味や好きな事を活かし、アクティビティを実施した。

VIII. 評価

1. 他事業所で利用困難になったケースや困難事例の方を受け入れてきた。
2. 12月より入院者、死去者、施設に入所する方等が重なり、利用人数1日平均10人を切る事が増えたが、新規利用者様の獲得が出来ず、利用率の回復に繋げる事が出来なかった。

IX. 課題

利用者様が利用終了となった際に、新規の利用者様が獲得できるよう挨拶まわりを継続する。

Ⅷ. グループホーム星遊荘業務報告

(担当：坂本 幸雄)

I. 【ミッション】

健康を維持し、笑顔で生き生きと生活できる。

II. 【ビジョン】

穏やかな環境の中で心身ともに健康で、「発する言葉、表情、仕草からその人の気持ちを理解し、入居者様本位のケアができる。

III. 【ストラテジー】

「STAYの精神」を実践する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. サービスの実施状況

月	行事名	月	行事名
4月	15日諏訪沢健康相談会	11月	17日宮田保育園お遊戯会见物
5月	13日法人観桜会、14日母の日	12月	25日クリスマス会
7月	16日金田豆蔵公演見物	12月	30日餅つき、31日年越し
8月	20日灯籠流し	1月	1日お正月
9月	18日敬老の日	2月	15日星遊荘大祭

(1) 誕生日会は9名様のお誕生日月に開催。(2) 料理教室 H29.6/8、10/24、11/16。

(3) 運営推進会議開催：偶数月6回/年 (4) 避難訓練：2回/年(昼夜想定)

2. 人材育成(8名全員対象)

(1) 星遊荘学習会でひやり・はっとメモについて対応策を検討して共有。

(2) 身体拘束になる具体的な行為を学習。

(3) 認知症のリハビリテーションについて共有。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持の向上具体策

1. 入居者様の健康監理受診状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
臨時・他科受診(のべ回数)	4	7	9	6	8	6	10	6	9	9	9	6

2. 稼働率：延べ利用日数 3,233日 稼働率 98.4%

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

1. 防火対象物点検2回 43,200円 2. 循環ポンプ交換 25,920円

3. 火災保険 100,800円 4. 消防設備点検料 17,800円

5. 布団乾燥機買い替え 7,870円 6. 換気扇交換一式 13,800円

VII. サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

職員会議 毎月1回開催

VIII. 評価

ひやり・はっとメモを提出し対応策を共有して、職員の事故防止意識が向上した。

IX. 課題

職員の高齢化により、腰や膝に負担がかかるようになってきた。サービスの質の低下につながらないように、負担軽減策を職員間で話し合い、実行していく必要がある。

Ⅷ. グループホームはくちょう荘業務報告

(担当：藤田 貞子)

- I. 【ミッション】
入居者様がその人らしく居心地の良い場所で希望を持って暮らせる。
- II. 【ビジョン】
自分の居場所、役割があり、馴染の人間関係で安心して生活が出来る。
- III. 【ストラテジー】
認知症ケアを理解し、家族様、地域の方とのつながりを継続する。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
1. 法人内の学習会に参加し、情報共有でケアに活かした。
 2. 家族様の参加を受け入れ、季節に合った馴染のある行事を実施。
 - (1) ねぶた小屋見学に家族参加1件。
 - (2) 年間を通じ、運営推進会議に4名～5名の家族参加があった。
 - (3) 夏祭りを通して他のグループホームへ訪問、地域住民との交流が出来た。
※日常的に地域の方が来荘し、行事の慰問や交流の場があった。
 - (4) 家族様にはグループホームでの生活を写真や電話で知らせ、好評を得た。
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
1. 予防接種、月1回の定期受診の継続と希望に沿った定期的な健康診断。
 2. 毎日の健康チェックと主治医、訪問看護との連携。
 3. 最良のサービスの提供で満足度の向上。
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
アメーバ経営を全職員で共有し、効果的な投資と経費削減に取り組む。
1. 備品の取り扱い方、消耗品の管理、代替えとなる工夫を全職員で取り組んだ。
日々の点検管理で修理代を抑え、清潔と安全を維持した。
 2. 目的を持って料理教室、行事、レクリエーション、おやつ作り等毎月実施。
- VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策
業務改善や支援の統一について話し合いマニュアルを随時変更した。
誕生会は誕生日に毎回実施。

月	行 事 名
4月	昭和の日、花植え、花見散歩
5月	観桜会、子供の日、母の日、憲法記念日、みどりの日
6月	父の日、ドライブ
7月	七夕、海の日（外出）
8月	夏祭り、お盆、ねぶた小屋の見学、山の日（外出）
9月	十五夜、敬老会（慰問）、秋分の日（秋彼岸）
10月	バーベキュー、ドライブ
11月	紅葉狩り、勤労感謝の日、文化の日（作品展示）
12月	クリスマス会、大晦日、天皇誕生日
1月	お正月（初詣）、小正月（料理）
2月	節分（豆まき）、建国記念日
3月	ひな祭り、秋分の日（春彼岸）

- VIII. 評価
慰問や立ち寄り、食材の寄付等、地域との交流が多く出来た。
- IX. 課題
移転による新しい地域での生活に馴染み、安心して暮らせるように支援する。

X. グループホーム宮田館業務報告

(担当：原子 幸弘)

I. 【ミッション】

その人らしく安心して生活することができる。

II. 【ビジョン】

自分の居場所、役割があり、馴染みの人間関係の中で安心して生活できる。

III. 【ストラテジー】

家族様、地域の方の繋がりが継続できる環境作りをし、職員は馴染みの関係が構築できるようコミュニケーション技術・認知症ケアを習得する。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. サービス実施状況

月	行事名	月	行事名
4月	7日 東陽小学校入学式後、お祝い	5月	13日 観桜会・手踊り見物
5月	22日 東陽小学校運動会見物	7月	7日 七夕(短冊に願い事を書く)
10月	29日 東陽小学校学習発表会見物	11月	18日 宮田保育園お遊戯会見物
12月	25日 クリスマス会	12月	31日 年越し(行事食)
2月	3日 節分(豆まき)	3月	3日 ひな祭り(手作りさくら餅)

(1) 誕生日会は9名様誕生日当日に開催。

(2) 運営推進会議開催 4/19、6/21、8/16、10/25、12/20、2/21

(3) カラオケ会・料理教室毎月1回実施。

(4) 避難訓練 4/30(夜間想定) 7/23(昼間想定) 10/19(夜間) 2/28(昼間)

2. 人材育成(全職員対象：8名)

(1) 宮田館学習会：病気の学習会5/3、認知症学習会(コミュニケーション技法)、接遇マナー6/7、看取り期の判断7/5、「仕事の神様が“ひいき”したくなる人の法則」8/1、身体拘束学習会9/6

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持の向上具体策

1. 入居者様の健康管理 受診状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
臨時・他科受診延回数	4	3	7	4	4	5	9	6	7	5	1	1

2. 稼働率：延べ利用日数 3,276日 稼働率 99.7%

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

- | | | | |
|------------|------------|---------------|----------|
| 1. 掃除機買い替え | 6,800円 | 2. スプリンクラー修理代 | 183,600円 |
| 3. お中元(4件) | 8,508円 | 4. 自動火災通報装置工事 | 59,400円 |
| 5. 外壁塗装工事 | 1,998,000円 | 6. お歳暮(4件) | 9,720円 |

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善の具体策

職員会議：毎月1回開催、外出支援：延べ人数316名

VIII. 評価

地域との交流が継続できている。地域の一員として今後もお付き合いさせて頂く。

IX. 課題

1. 個々の持っている能力に応じた役割を持ち生きがいのある生活ができる。
2. 地域と一員として今後もお付き合いを継続できる。

XI. ケアハウスリラ業務報告

(担当：中村 洋二)

I. 【ミッション】

健康管理、社会性維持に努め、個人を尊重した生活支援を実施する。

II. 【ビジョン】

安心して楽しみを持ちながら暮らせる施設となる。

III. 【ストラテジー】

楽しく生活が送れるように日常の交流と活動に取り組む。

IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策

1. 余暇活動を活かして、心身の健康を維持する。

(1) 余暇活動、介護予防活動の実施状況（年間）

・軽体操 106回・健康相談会38回・脳トレ72回・買い物 15回・お話し会 95回
カラオケ95回・紙芝居ボランティア4回実施された。

カラオケは水・日曜日実施。発声による嚥下の改善を狙い継続している。

2. 仲間と一緒に活動を通して交流を深める

(1) 各行事へ参加し、四季を感じ楽しく生活ができる。

・12月クリスマス会・2月節分・3月ひな祭に加えて、桜川の花見(車窓)や
施設内で夏祭りをを行い、季節感を体感していただいた。

3. 社会資源を活用できる

(1) 大型施設を利用し様々な店舗を見て「時代」を理解していただいた。

(2) 催し物(趣味、習い事等)については情報提供を継続出来た。

(3) 併設施設のボランティア(床屋:月1回、売店:毎週水曜日)を利用した。

4. 独自の評価表を作り、サービスの振り返りをし、次年度計画立案の基礎とした。

特に服薬管理が必要な入居者様の増加により管理に注力した。継続が必要である。

V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策

1. 入退居状況：新規入居者8名、退居者7名、延べ161名利用(年間利用率89.44%)

2. 利用料：総請求額14,310,650円 軽費老人ホーム運営事業補助金13,501,748円

VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策

ペレットボイラー導入後の機器に問題があり光熱費の正確な計測が出来ず実績把握は、次年度も継続する必要がある。

VII. 時間に関する重点項目：サービス時間を捻出するための業務改善策の具体策

朝礼時に入居者様のデイリー情報を中心に伝達を実施し身体情報を共有して複数名で観察を行い、体調悪化を予防し重症化を防止できた。

VIII. 評価

関連部門との情報交換が益々重要になってきた。特に医療機関への情報提供について経過観察記録を準備することが定着した。介護支援専門員、通所リハビリテーション、ヘルパー等関連部門と情報交換を密にして、サービス提供等の早期対応が実施できた。

IX. 課題

入居者情報が法人外からの提供が増えた。情報のフォローが益々重要になってきた。

XII. 有料老人ホーム菊川荘事業報告

(担当：對馬 壽子)

- I. 【ミッション】自立して共同生活ができる。
- II. 【ビジョン】社会資源を活用し、生活に潤いを持つ。
- III. 【ストラテジー】健康を維持し、穏やかな生活ができる。
- IV. サービスの質の向上：お客様に喜んでいただく人材育成・感動発信の具体策
 1. 生活のリズムを維持する
 - (1) 三食は残食なくしっかり食べていただき、行事食は特に喜んでもらえた。
 2. 理念に基づき今年度の方針「言行一致」に沿って、チームで協力し入居者の快い対応を実施した。地域との何気ない挨拶等コミュニケーションにも馴染んできた。
 3. 他事業所、社会資源を活用していただく
 - (1) 通所、訪問看護、訪問介護利用に際して介護支援専門員が本人様と家族様に充分説明し、了解が得られた内容で支援出来た。
 - (2) 地域との交流を図り楽しい活動の場とする。
 - 1) いちい荘通所リハビリテーション利用や外出時には他者との交流を楽しんでいただいた。
 - 2) いちい荘通所リハビリテーションを利用している方は、法人の行事へ参加し、他者との交流を図り季節感を味わう事が出来た。
5月：観桜会、12月：クリスマス会、2月：節分、3月：ひな祭り
 - (3) 法人内の研修会、学習会に参加出来ない時は職員会議で報告、学習会をした。
 4. 健康管理をし、安心して生活ができる。
 - (1) 各居室内環境を整え温湿度の確認をし異常の早期発見に努めた。また肺炎罹患の入居者様発生時にも対応がスムーズにできた。
 - (2) 薬の内服状況を確認し、飲み忘れのないようにした。
 - (3) 健康上の問題は主治医、家族様、介護支援専門員に報告・連絡・相談し柔軟に対応出来た。
- V. 収入に関する重点項目：お客様を増やす・稼働率の維持向上の具体策
 1. 状態不良等により医療機関等への長期入院を防止するよう配慮する。
食事の摂取状況の確認や毎日の体温、血圧を測定しながら一般状態の確認を行い、気付きのあるときは連絡網に沿って対処した。(肺炎2名)
 2. 平成30年3月31日で有料老人ホーム菊川荘の閉鎖が決まり、入居者様の転居の準備をお手伝いする事で、期日までに全員の転居が完了できた。
- VI. 経費に関する重点項目：効果的な投資とそれを実現するための削減の具体策
修繕箇所が見つかった時は早めに庶務に報告し対応した。
- VII. 評価
 1. 入居者様の居住環境を整え、健康管理に配慮し早めの対応を心掛けた。
 2. 持病のある入居者様には前兆時、連絡網により関係者で話し合う事が出来た。